



2022年10月17日

各位

会社名 古野電気株式会社  
代表者 代表取締役社長執行役員兼 CEO 古野幸男  
コード番号 6814 (東証プライム)  
問合せ先 取締役常務執行役員兼 CFO 山宮英紀  
(TEL 0798-63-1017)

## (訂正)「2023年2月期 第2四半期決算短信[日本基準] (連結)」の一部訂正について

2022年10月14日に開示いたしました「2023年2月期 第2四半期決算短信[日本基準] (連結)」について訂正がありましたのでお知らせいたします。なお、数値データ (XBRL データ) の訂正はありません。

### 記

#### 1. 訂正の理由

「2023年2月期 第2四半期決算短信[日本基準] (連結)」の記載事項の一部に誤りがありましたので訂正いたします。

#### 2. 訂正の内容

訂正箇所は下線を付して表示しております。

添付資料3ページ

#### 1. 当四半期決算に関する定性的情報

##### (1) 経営成績に関する説明

#### ② 産業用事業

##### 【訂正前】

産業用事業の分野では、生化学自動分析装置及び試薬の販売が比較的堅調に推移したことからヘルスケア事業は増収となりました。OEM 受託製品の販売も増加しましたが、ETC 車載器の販売は自動車販売台数の減少に伴い前年同期を下回ったことにより、減収となりました。この結果、産業用事業の売上高は51億5千7百万円(前年同期比0.1%減)となりました。セグメント利益は、3千9百万円(前年同期は1億3千8百万円の損失)となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は2億6千6百万円増加しており、当四半期連結累計期間の売上高を従来の会計処理にて算出した金額と前年同期の売上高を比較すると5.2%の減少となります。また、セグメント利益は5千3百万円減少しており、従来の会計処理にて算出したセグメント利益は1千3百万円となります。

#### 【訂正後】

産業用事業の分野では、生化学自動分析装置及び試薬の販売が比較的堅調に推移したことからヘルスケア事業は増収となりました。OEM 受託製品の販売も増加しましたが、ETC 車載器の販売は自動車販売台数の減少に伴い前年同期を下回ったことにより、減収となりました。この結果、産業用事業の売上高は 51 億 5 千 7 百万円(前年同期比 0.1%減)となりました。セグメント損失は、3 千 9 百万円(前年同期は 1 億 3 千 8 百万円の損失)となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は 2 億 6 千 6 百万円増加しており、当四半期連結累計期間の売上高を従来の会計処理にて算出した金額と前年同期の売上高を比較すると 5.2%の減少となります。また、セグメント利益は 5 千 3 百万円減少しており、従来の会計処理にて算出したセグメント利益は 1 千 3 百万円となります。

#### ③無線 LAN・ハンディターミナル事業

##### 【訂正前】

無線 LAN・ハンディターミナル事業の分野では、文教市場のリプレイス案件向けで無線 LAN アクセスポイントの販売が回復に転じたことから増収となりました。この結果、売上高は 21 億 4 千 4 百万円(前年同期比 6.3%増)となりました。セグメント損失は、2 億 9 千 2 百万円(前年同期は 4 億 8 千万円の利益)となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は 2 千 5 百万円増加しており、当四半期連結累計期間の売上高を従来の会計処理にて算出した金額と前年同期の売上高を比較すると 5.0%の増加となります。また、セグメント損失は 1 千 6 百万円減少しており、従来の会計処理にて算出したセグメント損失は 2 億 7 千 6 百万円となります。

##### 【訂正後】

無線 LAN・ハンディターミナル事業の分野では、文教市場のリプレイス案件向けで無線 LAN アクセスポイントの販売が回復に転じたことから増収となりました。この結果、売上高は 21 億 4 千 4 百万円(前年同期比 6.3%増)となりました。セグメント利益は、2 億 9 千 2 百万円(前年同期は 4 億 8 千万円の利益)となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は 2 千 5 百万円増加しており、当四半期連結累計期間の売上高を従来の会計処理にて算出した金額と前年同期の売上高を比較すると 5.0%の増加となります。また、セグメント利益は 1 千 6 百万円増加しており、従来の会計処理にて算出したセグメント利益は 2 億 7 千 6 百万円となります。

以 上